

技術者スピリッツ座談会

～技術者の未来、建設業界の未来～

出席者 (敬称略)

技術者スピリッツ掲載者

三浦 桂子 (株) 大林組

大賀 祐樹 岩澤建設 (株)

花輪 紘正 湯澤工業 (株)

谷 遼太 岩崎工業 (株)

古賀 莉紗 (株) ケイワールド日清

阿部 路代 (株) 阿部工務店

関東地方整備局

大西 亘 関東地方整備局長

司会

加邊 良徳 関東地方整備局 技術開発調整官

平成 29 年 4 月 21 日、関東地方整備局にて開催

○加邊(司会) 本日は、お忙しい中お集まり頂き、ありがとうございます。

技術者スピリッツは、“地域インフラ”サポートプランの施策として、昨年 10 月の開設以来、これまでに 100 話を超える技術者の「スピリッツ」を紹介してきました。そこには、技術者としての思いや、これから建設業界を目指す若者に向けた先輩としての話が綴られています。

建設業界では、これまでに経験をしたことがない高齢化が進行し、新たな担い手の確保が大きな課題となっています。

そこで今日は、スピリッツに掲載された技術者の中から、きらりと光る、業界の未来を担う 6 名の方にお越し頂きまして、「技術者の未来、建設業界の未来」と題して、これからの技術者・建設業界について、話を進めていこうと思います。

6 名の方は緊張していると思いますが、ざっくばらんにいろんな話しをして頂ければと思います。

申し遅れましたが、私、本日の司会進行をつとめます技術開発調整官の加邊です。よろしくお願ひします。

では、冒頭に、この技術者スピリッツを創設した局長の大西から一言挨拶をいたします。

局長挨拶

○大西 局長の大西です。

ご存知の通り、技術者スピリッツの目的は建設業界の担い手確保のために発注者としても汗をかこうというところです。特に官民含めて建設という仕事に興味を持ってもらおうということの 1 つだけです。

この業界に興味を持ってもらうにはどういう方

法が良いかを色々と考え、土木技術の宣伝、土木の技術力のすごさも大事ですが、一番興味があるのが技術者、人間ではないかということのを思いつき、技術者に光をあてたものを考えてみたところです。

整備局の HP は、発信力があると自負をしています。皆さんの会社の HP を毎日覗く人は多分ないけれども、整備局の HP なら覗く人はいるだろうと思い、そこを利用しようという思いもありました。



いま、皆さんにも協力いただき 100 話まで掲載しています。更新されるたびに一通り見させてもらっていますが、皆さんにはまだ言い足りないことがあるのではないかと思います。

技術者の方はやはり非常に謙遜されるし、照れるというところがあると思います。今日は、マスコミの方も来ていますが、謙遜せずに、照れずに思い切って話してほしいと思います。それが、次の世代に必ず繋がっていくと思いますので、そういう思いを持ってやってください。

今日はよろしくお願いします。

自己紹介

○三浦 大林組の三浦と申します。いま、東京外かく環状国道事務所を進めている、外環と中央道を接続するジャンクションを構築しています。現場の中では設計工務という位置におり、設計や工事の計画関係の業務にあたっています。

いま入社して 8 年目で、3 現場目になりました。よろしくお願いします。

○大賀 岩澤建設の大賀祐樹です。いまは、渡良瀬川河川事務所発注の秋山川左岸の工事で現場代理人をしています。

中学・高校とバレーをしており、そのチームワークを活かしつつ現場でみんなと和気藹々と、色々相談しあって現場を進めているところです。

○古賀 ケイワールド日清の古賀と申します。スピリッツ掲載時には江戸川河川事務所発注の榎野の堤防整備工事をやっていました。現在は、さいたま市発注の区画整備として調整池をつくる工事を行っています。

事務職をしていたため現場経験がまだ浅いですが、スキルアップのため日々頑張っているところです。

○花輪 山梨県の湯澤工業から来ました、花輪紘正といいます。いまは、担当技術者として従事している現場はないですが、日々上司に習って頑張っています。

山梨県南アルプス市で生まれました。小さい頃は父がハンドクリームを塗っているのを見て全身に塗ったり、墨汁で遊んで絨毯を汚してすごく怒られるような元気いっぱいの子どもでした。

姉が二人いまして、先々週に第一子を出産して 20 歳で叔父になりました。

建設業 3 年目ですが、私なりに色々考えてきましたので、今日はよろしくお願いします。

○阿部 栃木県日光市湯西川からきました、阿部工務店の阿部です。よろしくお願いします。技術者ス

ピリッツを書いたときは、五十里ダムの維持工事の代理人兼監理技術者でした。現在はとなりの川治ダムで代理人兼監理技術者をしています。流木やゴミが入らないように網場の改修や濁水フェンスの改修をする工事をこれから施工します。

○谷 群馬県の岩崎工業からきた谷と申します。今、国道17号の新設する工事をしています。よろしくをお願いします。

小さい頃から重機が大好き ～建設業界に入った理由～

○加邊 それでは、本題に入っていきたいと思えます。まず、最初のテーマとしまして、建設業界に入った理由をお伺いしたいと思います。

○三浦 小さい頃から、ダムや橋梁とかの大きな構造物に興味をもって、「かっこいいな」と思ったのが最初のきっかけでした。そこから、「どうしてこんなに山奥に大きな構造物があるんだろう」と考えたときに、環境や周辺状況に配慮しながら施工したと言うことを知って「面白いことをしているんだ」と思い建設業界に興味を持つようになりました。

○大賀 小さい頃から父親が土木系の仕事をしていたことがきっかけで、高校が建設工学科で土木分野を学んだので、土木をずっとやってきた流れで、今の会社に入りました。

○古賀 今の会社には、事務職として入ったため、建設業界に対する興味はありませんでした。しかし、現場の技術者さんと接しているうちに、私も現場に出て仕事してみたいなと思い始めたことがきっかけです。

○加邊 事務で入社されて、今は現場に出られていると…。

○古賀 そうです。なので作業着を着ると思っていたんです。

○花輪 モノづくりが好きで、高校でも土木について3年間学びました。大変さや難しさも知り、私に

は無理かなと思うこともありましたが、測量をみんなやってみると面白く感じました。不安や葛藤もありましたが、せっかく学んだ土木を捨てたくないという思いや、モノづくりをしたいという思い、若者が減っているということで、少しは力になれるかなと思い、土木・建設業界に入ることを決めました。

○阿部 結婚した先で、主人の父が工務店をしており、主人には兄と弟がいて、みんなで一緒にやっています。ほとんど建設業界を知らずに入り、お手伝いをしていくなかで、初めは事務仕事をしていましたが、現場にも行くようになりました。基本的には家族経営みたいな会社ですが、いまは地元の若い男性・女性が入ってみんなで楽しくやっています。

○加邊 事前情報では家族3人と聞いていましたが、実は4人だったんですね。

○阿部 主人の3人兄弟と主人の父も3兄弟なので、6人みんなでやっています。あと主人の母と私で、本当に身内でやっていたんですが、そこからだんだん増えていっています。

○谷 小さい頃から重機が大好きで、実家の近くで工事をしていた時に、お願いして重機に乗せてもらったことが最初のきっかけで、建設業界を目指して工業高校に入り、今の会社に入社しました。

○加邊 皆さんいろいろなきっかけがあるみたいですね。

○大西 肩に力が入っていない動機で良いですね。なかなか面白いなあと思って聞いていました。

1つの作業に集中せず、まわりで作業している人の安全も確認 ～技術者としての心がけ～

○加邊 動機・きっかけはそういうことだと思いますが、次は現場で土木工事を進めるにあたって普段心がけていることを中心に話をしましょうか。

○大賀 今、秋山川で工事をしている、地域の方が近くに住んでいたり、河川内の工事なので魚や漁業の関係がありますので、地域の方々に「秋山だより」という形でどういう工事をしているとか、進捗率を説明したり、漁業組合の人と釣り堀大会を開催したりしています。



古賀 莉紗
((株) ケイワールド日清)
技術者スピリッツ第 80 話掲載

○古賀 コミュニケーションが大事だと思うので、上司と下請けさんのパイプ役となり、仲立ちをしたり、上手く現場がまわるように報連相を大切にしたり、笑顔でいることを心がけています。

○花輪 良くまわりを見渡すことです。いま、経験も浅くて、知識も浅くて資格もないですが、監督を目指しています。上司に指示をされますが、その 1 つのことに集中してしまってもわりが見えなくなってしまうので、まわりを見て作業している人の安全を確認しながら、自分の作業をしなくては、と心がけています。

○阿部 発注者と施工者が 1 つの気持ちになるの

が重要かなと思っています。「こういうことをしたい」と言われたときに、何を求めているのか、例えば地域の方の要望であったりダムを整備の中で不便だからといった背景・目的を理解した上で施工方法・材料を選定したりするのが重要だと感じています。

あとは、NETIS 工法がないかを探してみたりしています。出張所の係長からこういう工法もあるよと提案して頂いたことがきっかけになり、去年は自分達の方から代替材料について提案をしたりもして、積極的取り入れていきたいと思いました。

○三浦 現場のまわりをよく見て、ありのままに受け取らないようにしています。常にものができるがっている間も、「なんでこの道具を使ったんだろう」「なんでこういう手順を踏んだんだろう」と考えると、新しい発見があったりします。今までいくつか現場を経験して、基本の方法を覚えてきましたが、それにとらわれずに現場を見るようにしています。

○大西 それは大事ですね。僕らも「どうしてこうやったやり方をするんだ」と聞いたら「去年も、一昨年もこうしていました」と言われて、では、どうして去年・一昨年はそうしたのかを聞くと答えられない人がいます。なぜそうしているんだろうと考えることは非常に大事だと思います。

○谷 現場で作業している人が安全に作業できることを常に考えています。朝礼や昼の打合せで一声かけて、現場内でコミュニケーションを取って伝えていっています。

○大西 安全が一番大事なことです。言い方悪いけれども、この業界は不人気業種、柔らかい言い方をすれば人気業種ではないので、この業界に入ってもらおう上で、きちんと休めることと、安全で怪我をしないことは必須アイテムであると考えています。

安全への心がけというのは、これからの長い技術者人生の中でしっかりと持っていてほしいと思います。

お互いに声かけをしていくことが一番大事
～安全について～

○加邊 次のテーマもありますが、いま話題に出た、安全や怪我をしないということが、これから若い人が現場についてくれることには一番重要だと思いますが、その辺について何かありますか。新技術といった話もありましたが、なるべく人の手が入らないとそれが安全に繋がったりもすると思います。現場でどういったことを考えていますか。

○大賀 いろんなメーカーから施工機械や監視カメラ等の装置がでているので、常日頃から、どこの誰でも現場を見てもらえるような取組をしたら良いと思います。



花輪 絃正
(湯澤工業 (株))
技術者スピリッツ第 55 話掲載

○加邊 安全や怪我をしないことに繋がるということで、いま国交省では i-Construction を進めています、その辺についてはどう思いますか。

○花輪 実際に近くで見る機会があり、良い経験になりました。バックホウでは、運転席にモニターが

付いていて、掘りたい高さが設定でき、その高さまでいくとバケットが下がらないようにできています。おおざっぱに言うと丁張りが要らなくなり、手元作業が少なくなります。機械まわりに作業員があまりいないという安全面のメリットがあると思います。

○大西 私も一昨日に乗ってきてすごいなあと思いました。それと同時に、今やっているオペレータの人もすごいなあ、熟練の技術はすごいと思いました。

○阿部 安全に関して言えば、知っている、知らないが大きく関係していると思っています。知っていれば安全にできたのに、知らなかっただけで安全にできなかったということも多いので、情報を与えることが、同じ会社で一緒に働くものの責任だと思っています。

装着しなくてはいけない道具、安全帯であったりヘルメットであったりという当たり前のことをした上でも、危険が常にあるという意識のもと、声かけが一番大事だと思います。各現場、同じような現場は二度と無いので、常に新しい現場のつもりで何が危険か良く見ながら、お互いに声かけをすることが大事だと思います。

○三浦 安全設備も多く取り入れています。掘削重機の死角に立ち入らないようにレーザーをつけたり、誰でも危険な箇所が分かるようなものを付けています。ですが、声かけが一番重要で、皆さん分かっているもうっかり忘れていて安全帯を使用していないとか、カラーコーンで危険箇所を色分けしたりしていても近道で通り過ぎたりする人もいます。そういった行動を見つけたら声をかけて止めたりしています。分かっているても気の緩みで入ってしまうことが現場ではよくあるので、そうならないように口酸っぱく言い続けたり、安全教育をしたりしています。

○古賀 顔をよく見たりするようにもしています。

前日飲み過ぎたりしているのは見れば分かるので、注意して見ていて体調悪そうな人がいたらすぐに声をかけたりしています。

**3kのイメージを解消、ICTの取り組みを発信
～人材確保に向けて取り組むべきこと～**

○**加邊** 安全でけがをしないような職場に配慮することが、これからの建設業界に人材を呼び込むことにあたって大事だと思いますが、これからの建設業界の人材確保に向けて皆さんの立場でどういう風に思ったか聞かせてください。

○**花輪** 建設業界は男らしいイメージがあって、一歩下がってしまう感じかと思います。先輩からは今では考えられないようなことをしてきたと聞いてきましたが、今は安全面も整備されてきていることをアピールしていくことも必要だと思います。また、土木系の専門学校を出ても1/3くらいしか建設業界に進まず、その中でもほとんどの人が辞めてしまっているの、土木系の専門学校を出ている人を大事にして、建設業界に行ってみようと呼びかけることが大事だと思います。

○**谷** (自分が) この業界に入ったきっかけが小さい頃重機が好きだったことなので、小中学生向けに現場見学を開催して建設業界はこうだと見せつけたら良いと思います。

○**大西** 見せるということは大事ですね。図鑑で見てもよく分からないですから。

○**大賀** この業界は休みがなかったり、工期が詰まってくると日曜日に出たり、夜間に残業していたりという部分が目立ちます。また、3Kのイメージもあるので、そういう部分が解消されていないなと思います。少しずつ、ICTとかにも取り組んでいて、やりやすい作業を心掛けていることを新入社員や学生に発信できればと考えています。



谷 遼太

(岩崎工業 (株))

技術者スピリッツ第 62 話掲載

○**三浦** 会社で新入職員が集まる場があり、そこで新入職員の不安を和らげるために話をしてきました。やはり、皆さん休日がどれくらいもらえるかを気にしていました。会社の取組でなるべく週休2日を現場で取り入れていこうとしています。現場自体を止めることはできないので、元請け職員は休んでも、職人さんや作業員さんは働き続けていることに心苦しさがあります。なるべくならば現場を閉所したいという気持ちもありますがなかなか難しい状況です。

○**阿部** 昨年度受注した工事の1つが週休2日モデル工事だったので、その現場は週休2日でやりましたが、他の現場が動いていたので、会社自体が土日休みだった訳ではありませんでした。職人さん達が出るときは、私たちも出ますので、なかなか休みをつくることは難しいです。特に会社が山間部にあるので冬は除雪作業があり、朝4時に出発することになります。急に雪がふれば土日関係なく出ることを仕事として考えているので、休日確保は難しい

です。緊急対応もありますし、天候にも左右される職種だと思います。会社としては休みを増やしていきたいという気持ちで、土日は休日として使ってほしいと考えていますが、収入がほしいので働きたいという考えの人もいてそこをどういう風に調整していくかが難しいです。

○大西 月給をもらっている人と、日給をもらっている人が力を合わせて同じものをつくっていく職場なので、その難しさは皆さんにあると思います。でも、それだからできないと言い続けていたら何も変わらないので、発注者としても色々と実行していかないといけないと考えているのですが。

○古賀 今まで従事した工事は、自治体発注の現場がほとんどで、国交省発注の現場はスピリッツ掲載の工事が初めてでした。国交省発注の現場は女性技術者の登用を促すモデル工事ということで女性用トイレ、女性用更衣室を設置してもらいましたが、自治体発注工事では女性用更衣室も水道もないという現場がほとんどです。なので、公共工事全体で作業環境改善に取り組まなければ、女性技術者を増やすことは難しいと思います。

○加邊 やはり、自治体への普及もしていかななくてはいけないということですね。私たちも、国交省だけでなく、発注者が集まる場を通じて、取組を啓発していこうとしています。発注者側だけでなく、受注者からもいろんなところで発言していったらえれば進んでいくのではないかと思います。

**若い人達が第一線で働くチャンスがある
～建設業界に入る若者へ伝えたい現場の魅力～**

○加邊 これから建設業に若い人がもっと入って頂かないと技術者・技能者が高齢化しており、今後5年以内にかなりの方が辞めていくという統計があるなかで、業界に入る若者に伝えたい現場の魅力や伝えたいメッセージを教えてください。



三浦 桂子

((株) 大林組)

技術者スピリッツ第6話掲載

○三浦 携わった現場の高速道路が開通して走りに行った時にとってもやりがいを感じたのと、みなさんが使ってくれていることに感動をしました。

建設業を知らない友人からは最初のイメージは良くないけれども、「〇〇をつくった」と言うすごさと言ってくれるので、それは1つの魅力だと思います。

また、現場でいろんな人が集まって仕事をしているので、コミュニケーションを取りながら仕事するのが楽しいです。面白い人や優しい人、怖い人、いろんな人がいるけれども、気が合う人とは現場が終わっても連絡を取り合ったりしています。

○大賀 自分たちより年齢層が高い人が一番多い業界だと思うので、その人達が退職していくと若い人達が第一線で働くことになると感じています。そういう中で、自分が思っていることや、やり方をアピールできることが今の魅力だと感じています。いろんなことに挑戦して、失敗もありますが、活躍していけるチャンスがあると思います。



大賀 祐樹
(岩澤建設 (株))

技術者スピリッツ第 16 話掲載

○谷 いろんな工事があるので、毎回違う作業や段取りになります。各工事で内容が全然違うので飽きないと思います。新しい発見もありますし、検査直後の達成感はずごくあります。

○阿部 興味を持つきっかけは子どもの頃のちょっとしたことだと思います。例えば重機については、「乗ってみたい・カッコイイ」というところから始まると思います。見学会などで見て触れる機会を増やして、体験していくことが重要だと思います。その後、自分が働くときにやってみたいという気持ちになるような、現場を見た人が働いてみたいと思えるようなことができれば良いのかなと思っています。

年配の方の技術を継承していくのは難しいですが、若い人達とのギャップを埋めていくことも必要だと思います。

○大西 世代間のギャップを埋めていくことが、若者の入職に繋がるということですかね。

○加邊 業界団体主催のイベントがあったりする

と小さい子どもも大勢来て魅力を感じていると思います。お話を聞いていると、感動するとか達成感があったりするところやカッコイイと感じるところから業界を盛り上げていければ良いと思います。それ以外に何かありますか。

○花輪 建設業は 3K といわれていますが、勤めていて感じているもう一つの K があり、それは「カッコイイ」の K です。みんなで知識や経験を集めてひとつのものをつくっていくという達成感はみんな同じだと思います。また、建設業は人を守る仕事だと思います。そういうカッコイイ仕事であることを知ってもらえればと思います。

○大西 言いふらしていくのがみんなの仕事です。皆さんが発信や PR を会社に任せず、個人レベルでやっていくというのも大事です。

ダム好きの人が「ダムマニア」として紹介された途端に一大社会勢力となりました。一人一人が発信していくことも大事だけれども、若い人達で組んで発信をしていくことも大事です。荒っぽい発信でも良いのでやっていってほしいと思います。可能性は無限にあります。

○三浦 メディアの力はすごくあると感じています。二年ほど前に「土木女子！」という冊子が発売され、キー局が取り上げて一時期「ドボジョ」がメディアに上がってきました。それから業界に女性が増えてきたなと感じています。

書店では「土木女子！」以外にもとび職の専門誌(写真集)があって、とてもかっこよかったので見せる方法としてメディアは強いと感じました。

○古賀 1つのものを造るにあたって、一人一人考えが違い、完成に至るまで大変ではありますが、一生残る構造物や道路が完成したときの達成感、他の仕事では味わえないものがあると感じていますし、魅力の 1 つだと思います。

○大西 重機マニアを組織してはどうでしょう。結構ファンがいるんじゃないでしょうか。

○大賀 重機マニアは良いと思います。小さい子どもとか好きな人が多いと思います。

○大西 それも1つのきっかけになると思います。土木・建設業全体からではなく、1つのパーツから始めるというのは良いかもしれないですね。

女性用だけでなく、みんなが快適な職場の整備を
～建設業界を盛り上げるために～

○大賀 土日に休みが無いことは、高齢者が多く居ることや肉体労働なのでキツイ部分あります。プレミアムフライデーも業界にはないという状況です。天候に左右されて工期がきつくなったりもするので、余裕がほしいと思います。

○三浦 休日が不明確なところがあって、サービス業や製造業とは全くの別物だと思います。

外での作業になるので、天候に左右されることは致し方ないけれども、ある程度確定した休日を確保できるように変えていくべきだと思います。

○古賀 週休二日を私たちが取りましようと言っても、職人さんは日給月給の人がほとんどなので、週休二日はちょっと難しいと感じますが、職員は交代で休みを確保して、休日を増やしていければ良いと思っています。

○谷 工期を長くとることができれば、休日をとることも可能になるのではないかと思います。

○三浦 建設業のイメージをあげるべきだと思います。建設業を知らない人からは3Kのイメージを持たれています。特に都会の現場は仮囲いで中が見えないので、一般の人は中でどんなことをしているか分からないと思います。今の現場は透明の仮囲いを何ヶ所か設置していて、通行している人がそこから中の様子を覗いていたりするので、もっと外から見えるようにするなど、イメージアップに繋がるような工夫をしていければ良いと思います。



阿部 路代

((株)阿部工務店)

技術者スピリッツ第90話掲載

○阿部 重機は時代の流れとともに新しくなっており、排ガス対策・騒音対策で第3次基準が使われていますが、積算で見られているのが一番低レベルなものになっています。実際はそういう重機は使われていない状況です。売られているものも、リース屋さんにあるものも最新型になっています。積算単価にあわなくなってしまうので、時代・市場に合った、環境に配慮した機械を使用することを前提とした積算をしてほしいという希望があります。

○大賀 河川工事をするにあたり、出水期で工事ができる期間が縛られているので、もう少し工事を早めに出すとかはできないですか。

○大西 出水期間については何かが起こることを考えると難しいところがあります。しかし、早く工事を公告して準備期間を設けるというのは大事な話です。発注者の工程はやはり厳しいところがあるということですね。積算の方は行政は実勢価格を反映した予定価を出さなくてはいけないので、実態と違っている部分はどんどん言ってほしいと

思います。

○古賀 水道・トイレを直して行ってほしいです。水タンクも苔が生えていたりして、衛生面があまり良くないです。

○大西 今でも、大きな工事のところでは、女性用のトイレやパウダールームがあったりするけれども、標準仕様にして行くべきで、今は自慢のネタになっているけれども自慢にならない位にしていかなくてははいけませんね。

○古賀 リース会社でも持っている在庫が少なく、また女性登用モデル工事の受注時期が一緒になるので、良いものは他現場に取られてしまうとリース会社から聞きました。

○大西 女性用トイレが当たり前になれば、リース屋さんも多く仕入れるようになっていくでしょうね。

○三浦 女性用だけでなく、男性用も整えていっても良いと思います。

○阿部 雑誌で男性用のロッカールームがないという声が上がっていました。女性用ばかり整備されていて男性用が整備されていないと書かれていました。

○三浦 職場環境を整えていく中で、女性用の商品は男性用に比べて少ない状況ですが、男性用も良い状況とは言えず、この際男女関係なく環境を整えていきたいと思います。女性ばかりをピックアップするのではなく、みんなが快適に使えるような職場の整備が必要だと思います。

○大西 そういった設備が整っていると、仕事に対するモチベーションも変わりますね。トイレが汚いと仕事に行くのが嫌になってしまいますから。

○三浦 コンビニのトイレを使う人もいるので、建設業界のイメージが悪くなる一因になっているのではないかと思うことがあります。

○阿部 女性が少ないので、現場に女性用トイレが

あっても自分のためだけに汲み取り等してもらおうと考えると使いにくいです。もっと女性が増えて使いやすい雰囲気になってもらえればと思います。

○古賀 女性登用モデル工事の時は女性が一人だけで、トイレを男性用と別の場所に作ってもらいましたが、自分一人しか使わないので、気まずい思いをしました。

○阿部 林業の現場にはまずトイレが無いので、山の現場に行くときはトイレが一番つらいと感じます。女性がなかなか現場に行けないことの理由の1つだと思います。

○三浦 最初建設業界に入ったときはある程度割り切っていたのでなんとなく大丈夫でしたが、今は色々と言える雰囲気になってきたので、この波に乗って、と思っています。

○大西 今は、働き方改革などのブームが来ているので、今のうちに要望を言っておいた方が良いでしょう。働く環境として、トイレもそうだし、休暇も、賃金も大事ですね。

○阿部 建設業に人を呼ぶ手段として、現場もそうですが、事務所の仕事もあります。経理的な仕事をしたいという人にも建設業には現場だけではなくいろんな職種があるということを伝えていくことも大事だと思います。総務・経理・契約・積算などといった仕事もありますから。

祖母がスピリッツを親戚中にFAXして喜んでくれた
～スピリッツに掲載された反響～

○三浦 業界の友達が見てくれて、反響がありました。会社でも取り上げてもらって、アピールにも使わせてもらったりしました。一番喜んでくれたのが親で、仕事内容について伝えてはいたのですが、紹介してもらったことで仕事のイメージがついたようで、「すごいことをしている」と自慢をしているようです。期待に応じて仕事していきたいと思いません。

○大賀 全部の現場が紹介されている訳ではないので、知られていない部分が多いかなというところも見受けられますので、若手も含めてこの業界に入ってもらえたらと思います。建設業は男の仕事だけではないので、女性の方にも入ってもらいたいと思います。

○大西 ルールとして、会社の名前は良いけれども、宣伝はしないこととなっていますが、関東地整がオープンにしたものをどのように使うかは皆さんの勝手なので、電車の中吊りにしても良いので、いろんなところに使ってください。

○古賀 祖母がすごく喜んでいて、どんな仕事をしているか知らない状況だったので、スピリッツを親戚中に FAX して大変喜んでいました。

○大西 お母さんやおばあちゃんから近所の人に、というのは1つ狙った部分でもあり、(当人の)親が安心している仕事というのは近所の人の子どものとっても安心な仕事であるはずなので、どんどん広がりを作っていってほしいです。

○花輪 20歳で良い経験をしました。経験が浅いという理由で先輩に甘えていた部分もあったので、ここまで大々的にして頂いて、身が引き締まりました。

○阿部 掲載についてはあまり人に言っていないのですが、去年局長表彰を頂いた辺りから気持ち新に取り組みたいと感じることが多く、技術者スピリッツの話しを持ってきて頂いたことや、座談会にも参加できたことも縁なのかなと思います。こういう経験をさせてもらって、まわりの人に感謝しなくてはいけないなと感じています。

○谷 下請けさんからも「谷さん載ったんだ」と言われたり、役所の人からも「トランペットの人だ」と言われたり掲載されることで人が分かるので、続けていってほしいです。



座談会の様子

○大西 現場の近くを通行している小学生からしてみたら怖いおっちゃんかもしれないけれども、そういう人が「トランペット」といったらイメージが変わると思います。ヘルメットをして作業をしている人のことを子ども達がどう思うかというのが大事であって、イメージが変わると思います。「人となりを知ってもらおう」という思いでやっています。

**毎日勉強しながら、頑張ろうと思う
～これからの決意～**

○大賀 現場ではまだまだ若いため知らないことが多く、分からない工法などもあります。色々なことを取り込んでいき、安全第一をモットーにしていきたいと思っています。

○三浦 会社の中では8年目で後輩を持つ立場になりましたが、まだ覚えることはいっぱいあります。1つずつ身につけていって、将来的には所長になりたいと思っています。ここで改めて頑張りたいと思っています。

○古賀 建設現場のイメージをもっと良くしていきたいなと思います。女性が増えるようにしたいです。

○谷 まだまだ未熟なので、上司や下請けさんから色々な指導を受けながら、これからの建設業を盛

り上げていきたいと思ひます。

○**阿部** 一つ一つの現場は違ひ、毎日が勉強なので、いろいろな人達との出会いの中で自分も成長させてもらっていると感ひます。視野を広げ毎日を楽しひ、明るく「今日も一日安全で良かったね」と職人さんと言えりるような形に持っていかなくてははいけなひと改めて思ひました。今後も毎日勉強しながら、頑張ろうと思ひます。

○**花輪** 掲載して頂ひて、心の支えになりました。まだまだ未熟で、先輩方からいろいろなことを教わるので、i-con や新技術など全てを吸収して、時代に遅れなひように頑張っていこうと思ひます。

○**大西** みなさんベテラン技術者とは言えなひ段階にいてると思ひます。どんどん色んな経験を積んで頂ひて、技術力を磨いてほしひと思ひます。あとに続く人を惹き付けなくてははいけなひと思うので、皆さんもそういうことを考えながらやっていかなくてははいけなひし、皆さんの積み重ねが建設産業を維持・発展させていくことに繋がると思ひます。皆さんに頑張ってくださいと言うと同時に、私たちと一緒に頑張りましょうということで、私の激励とさせて頂ひます。



参加者で記念撮影